

子どもがいる親世代に聞いた「2020年子どもの夏休みに関する調査アンケート」

調査方法：紙回答

調査地域：全国

調査期間：2020年6月21日（日）～2020年7月8日（水）

調査対象：20代～50代の子どもがいる親 男女 計273人

イー・ラーニング研究所調べ

<https://www.jiji.com/jc/article?k=000000109.000013831&g=prt>

イー・ラーニング研究所では20代～50代の子どもがいる親を対象に「2020年子どもの夏休みに関する調査アンケート」を実施。

その結果、夏休みを子どもがどのように過ごす予定なのか等の実態が見える調査結果となりました。

・「子どもの夏休みに勉強させたい習い事は何ですか」

第1位が「英語・英会話スクール」が最も多く、続いて「プログラミング」となっています。今年から小学校で開始された英語やプログラミングに関して、学校外での学びとしても注目度が引き続き高いことが伺えます。

・「オフラインとオンラインのどちらで、子どもの夏休みの習い事をさせたいですか」

74%が「オンラインとオフラインの両方」と回答しており、「オンライン」と合わせると9割以上がオンラインでの習い事を検討しています。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、安全面を意識していることからオンラインの習い事への関心度が高まっていることが考えられます。

・「新型コロナウイルス感染拡大に伴う夏休みの短縮についてどう思いますか」

「賛成」が半数を超える結果となっています。賛成の理由としては、「学校の遅れが取り戻せるから」が第1位となり、新型コロナウイルス感染拡大による休校処置で発生した学習の遅れを補いたいと思う親が多いことがわかります。

また反対の理由としては、約9割が「学習よりもその他の体験を大切にしてほしいから」と回答しており、子どもの学習以外の面の向上を妨げてしまうことを懸念していることが伺えます。

・夏休みの授業に関する不安要素第1位は「感染予防対策」

「夏休みの授業に関する不安要素は何ですか」では、「感染予防対策」が一番多くなり、“勉

強をさせたいが学校に行くのは心配”という教育に関して複雑な心境を抱えていることがわかります。このことから With コロナ・After コロナに向けて、学校現場においてもオンラインとオフラインを融合させた教育を検討する必要性があることが伺えます。